

日比谷野外音楽堂の舞台では
全労連女性部のパフォーマンスも



2008年春闘 第1次中央行動

2008年2月15日、春闘の本格的なとりくみが展開されています。2月13日には、公務労組連の2008年春闘第1次中央行動として、「なくせ貧困! 2・13総行動」が首都・東京で展開されました。いまの日本、貧困が大きな社会問題になっています。生活保護世帯が100万件を突破し、労働者の賃金が9年連続で下がるなか、年収200万円以下の労働者が1023万人。大企業が史上空前の大もつげをしている一方で、中小零細企業は下請け単価の切り下げで経営困難に苦しんでいます。この中央行動では、「格差と貧困」の解消。社会保障の削減や増税を許さず、国民生活を守り、公務公共サービスの拡充。すべての労働者のベースアップ。非正規労働者の均等待遇の実現などをもとめて全国から7000人が声をあげました。大阪自治労連は関連・非正規労働者、医療関係労働者など31人、厳しい寒さのなか、集会、宣伝、パレードなどに参加しました。

貧困なくせ! 賃金引き上げ! 均等待遇を!



総務省前では
自治労連など公務労組連絡会が要求行動

「格差と貧困」の解消を
訴える土田敦志さん
(大阪労連女性部長)



東京都千代田区の日比谷野外音楽堂には
全国からつめかけた参加者でいっぱい

日時だよ! 全員集合

2008春闘の
主な行事・とりくみ

- 2月18日(月) 2008年新年号機関紙コンクール表彰のつどい(大阪機関紙会館)
- 2月23日(土) 近畿憲法学習討論集会
- 2月23日(土) 原爆症裁判の勝利をめざすつどい(いきいきエイジングセンター)
- 2月29日(金) 府議会開会日・府庁包囲行動(大阪城公園教育塔前)
- 3月1日(土)~2日(日) 2008年「3・1ピキニデー」(静岡県静岡市・焼津市)
- 3月2日(日) 「なくせ貧困! 府民大集会」(扇町公園)
- 3月3日(月) 2008年春闘パート1000人行動
- 3月5日(水) 2008年春闘公務労組連絡会第2次中央行動(東京)
- 3月8日(土) 大阪自治労連2008年春の組織集会(エルおおさか)
- 3月8日(土) 国際女性デー大阪集会(御堂会館)
- 3月13日(木) 2008年春闘大阪総行動
- 3月15日(土) 大阪自治労連第19回駅伝競走大会(大泉緑地公園)
- 3月20日(木) イラク戦争5年大阪集会
- 3月21日(金) 「九条の会おおさか」憲法講演会(中央公会堂)
- 5月6日(火) 「九条世界会議」関西集会(大阪市・舞洲アリーナ)
- 5月14日(水) 大阪自治労連第58回中央委員会(大阪グリーン会館)
- 5月14日(水)~15日(木) 自治労連第37回中央委員会(神奈川)

会場いっぱいのつどい参加者(円内は山口剛史さん)



「建国記念の日」不承認2・11大阪府民のつどい

歴史の真実を次代へ伝える

「建国記念の日」の2月11日、大阪市内で「建国記念の日」不承認2・11大阪府民のつどい」がひらかれました。このつどいは毎年のこの日にひらかれ、日本国憲法の理念と歴史的事実に反する「建国記念の日」に反対するとともに、この日を平和と民主主義を考え学ぶ日として位置づけ、今年で42回を数えます。つどいでは、「沖繩戦の歴史歪曲を許さず、沖繩から平和教育をすすめる会」の事務局長で、琉球大学准教授の山口剛史さんが「歴史の真実を次代へー沖繩から」のテーマで講演しました。

山口さんは、この間の「沖繩戦での日本軍による住民の集団自決の強制はなかった」とする教科書検定意見撤回運動にかかわり、昨年の9月29日の1万2000人の沖繩県民集会はじめ全国に広がった運動の中心を担ってきました。「教科書検定意見撤回運動は島ぐるみの運動となり日本政府を大きく揺り動かしてきた」。

沖繩戦の実相を消してはいけないということがあるの思い。生き残った沖繩の戦争体験者は、忘れることのできない戦場の光景を抱えるだけでなく、死んだ家族や親せき、友人などの死も背負ってこれまで生きてきた。戦争体験者の体験をなかつたものにするのは、いま生き残っている体験者の存在を否定し、犠牲者をも否定することになる。教科書検定意見で集団自決の強制を削除することは、まさに、こうした体験者の琴線にふれたのだと思う」と指摘しました。

さらに、「地方議会や諸団体で見書の決議があつたのは「沖繩戦の真実を次代へ」という思いが全国に広がったからと思う。子どもたちに日本が行った戦争をどう教えるべきか。私は、侵略の事実、加害の実相を隠すことなく教えることこそ、二度と戦争を起こさないと決意した日本国憲法の精神を学ぶことだと思う。沖繩戦では、軍隊は住民を守らなかつた。これが私たちが学ぶべき教訓だ。これを消すことは戦争の本質、軍隊の本質を歴史から消し去ることだ」と強調しました。

つどいは、参加者からの意見発表や交流をし、「集会宣言」を採択して終わりました。

BOOK ON

『荒れる子どもとガチンコ勝負』

著者 清水結三

定価 1381円+税

編集 福田敦志
解説 大阪保育研究所



著者の清水結三さんは学童保育指導員として20年のキャリアです。青年時代はジャッキー・チェンにあこがれ、労働組合では大阪市学童保育指導員労組の委員長もつとめてきました。学童保育は、放課後の子どもたちの、安心で安全な生活と豊かな成長・発達を保障したいという、働く親たちの切実な要求に根ざして、全国でとりくまれてきました。しかしいま、学童保育は、子どもをめぐる激しい変化に対する対応という新しい困難にぶつかっています。子どもの「荒れ」に指導員も苦悩しています。こうした課題に実践的に挑んだのが指導員の清水結三さんです。そして、その実践を分析したのが研究者の福田敦志さんです。この本は、こうした清水結三さんの1年間にわたる実践による、子どもと指導員の悪戦苦闘のドラマでもあります。